資料３

一般廃棄物排出実態等調査結果（速報）について

1. 調査概要

「仙台市一般廃棄物処理基本計画」の中間見直しに必要な情報の収集を目的として、ごみ組成分析調査、市民・事業者アンケート、市政モニターアンケートを実施した。

2. 調査結果概要（速報）

（１）ごみ組成分析調査

１）生活ごみ

- 家庭ごみにおける生ごみに占める食品ロスの割合について、令和６年度速報値を見ると、「食べ残し等」が最も多く 13.5%、次いで「全く手付かず　(100%残存)」が 8.7%、「ほとんど手付かず（50%以上)」が 1.3%となっている。

図表 1　生ごみに占める食品ロスの割合

	令和元年度（基準値）	令和３年度（実績）	令和４年度（実績）	令和５年度（実績）	令和６年度	
					速報値	令和元年度比
食品ロス[%]	34.5	20.5	18.5	22.7	24.7	▲9.8pt
全く手付かず（残存100%）[%]	17.0	8.7	6.0	10.3	8.7	▲8.3pt
ほとんど手付かず（50%以上）[%]	4.5	1.7	2.9	2.5	1.3	▲3.2pt
一定程度手付かず（50%未満）[%]	1.9	2.7	1.1	0.9	1.2	▲0.7pt
食べ残し等[%]	11.1	7.4	8.5	9.0	13.5	2.4pt
調理くず[%]	62.7	75.5	78.1	70.5	70.4	7.7pt
その他（茶殻等）[%]	2.8	4.0	3.4	6.8	4.9	2.1pt

２）事業ごみ

- 事業ごみ（可燃）の組成について、令和６年度速報値を見ると、「プラスチック」が最も多く 21.7%、次いで「リサイクル可能な紙類」が 18.0%となっている。

図表２　事業ごみ（可燃）の組成

	令和元年度（基準値）	令和４年度（実績）	令和５年度（実績）	令和６年度	
				速報値	令和元年度比
厨芥類[%]	25.2	15.9	6.6	14.2	▲11.0pt
リサイクル可能な紙類[%]	19.5	14.4	20.9	18.0	▲1.5pt
プラスチック[%]	13.9	22.7	27.4	21.7	7.8pt
ペットボトル[%]	0.5	0.6	1.2	0.3	▲0.2pt
金属類[%]	1.9	1.1	0.4	1.0	▲0.9pt
その他[%]	39.0	45.3	43.5	44.8	5.8pt

（２）市民アンケート

調査期間		令和６年 11 月８日～令和６年 11 月 29 日
調査対象等		無作為に抽出された仙台市内の 3,000 世帯に送付、設問数 30 問、回答数 1,116 件、回答率 37.2%
回答者属性	居住区	青葉区 30.7%、宮城野区 15.9%、若林区 11.3%、太白区 22.4%、泉区 19.5%、無回答 0.1%
	性別	男性 51.8%、女性 47.3%、その他 0.0%、回答しない 0.6%、無回答 0.3%
	年齢	20 歳未満 0.2%、20～29 歳 5.1%、30～39 歳 7.7%、40～49 歳 12.1%、50～59 歳 19.7%、60～69 歳 19.4%、70 歳以上 35.6%、無回答 0.2%
	世帯構成	一人暮らし 25.9%、夫婦（パートナー）のみ 28.7%、二世代（あなたと親）5.5%、二世代（あなたと子）32.8%、三世代 3.9%、その他 1.7%、無回答 1.5%
	同居人数（回答者含む）	１人 25.0%、２人 36.0%、３人 20.1%、４人 11.0%、５人以上 5.4%、無回答 2.5%
	職業	会社員・団体職員等 37.2%、自営業 6.5%、パート・アルバイト・非常勤 12.4%、家事専業 17.5%、学生 1.0%、その他 23.9%、無回答 1.5%
	居住形態	一戸建 53.2%、分譲マンション 17.9%、賃貸マンション・アパート 24.6%、社宅・寮等 1.3%、店舗兼住宅 0.5%、その他 2.1%、無回答 0.3%
	通算居住年数	１年未満 1.7%、１年以上３年未満 4.6%、３年以上５年未満 2.6%、５年以上 10 年未満 6.8%、10 年以上 30 年未満 28.9%、30 年以上 50 年未満 30.6%、50 年以上 24.6%、無回答 0.1%

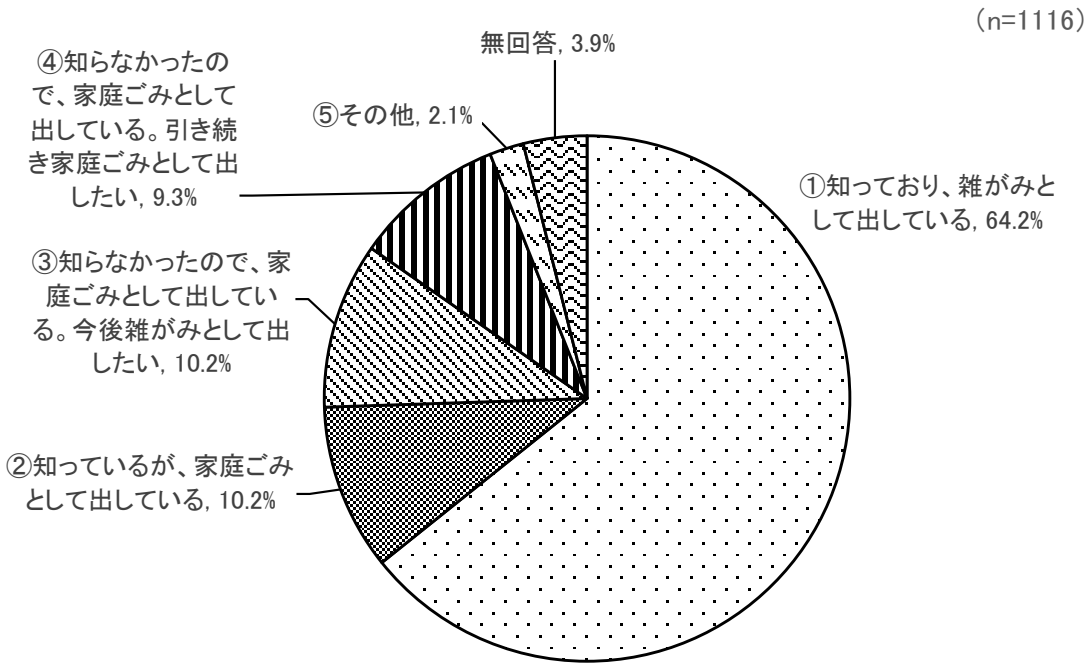
※端数処理の関係から、割合の合計が 100%とならないことがある（以降、同様）。

１）リサイクル可能な紙類

➢ 雑がみ回収の認知度と排出行動

「①知っており、雑がみとして出している」の割合が最も高く 64.2%となっている。次いで、「②知っているが、家庭ごみとして出している」、「③知らなかったので、家庭ごみとして出している。今後雑がみとして出したい」がいずれも 10.2%となっている。

図表 3　雑がみ回収の認知度と排出行動

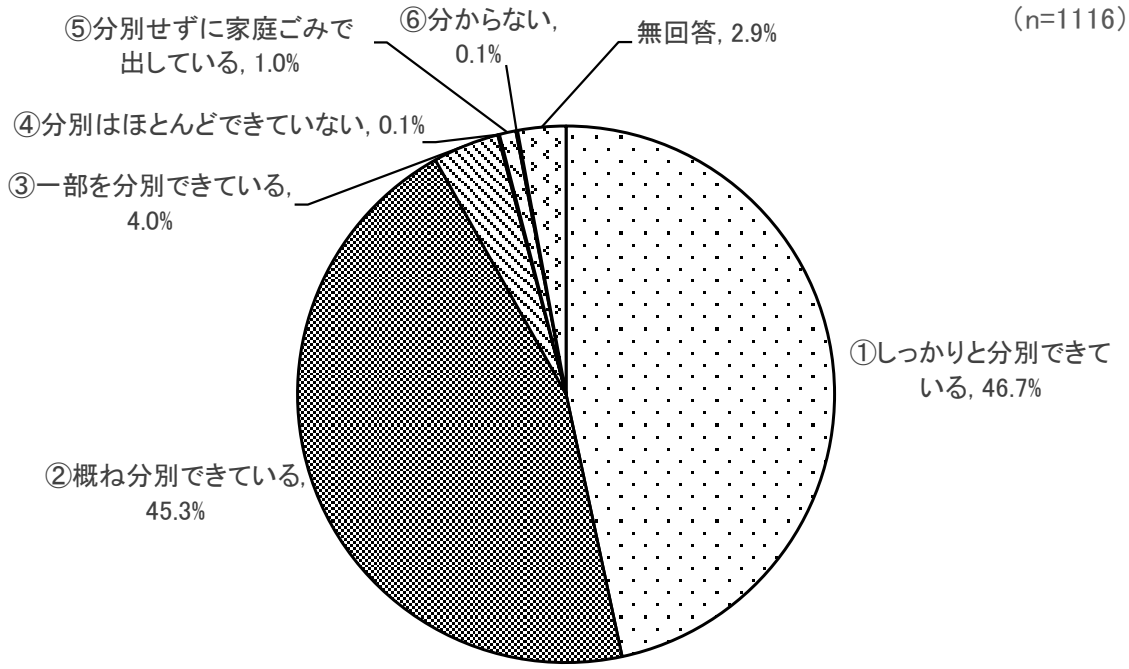


２）プラスチック

- プラスチック資源（赤の指定袋）を出すときの分別状況

「①しっかりと分別できている」の割合が最も高く 46.7%となっている。次いで、「②概ね分別できている（45.3%）」、「③一部を分別できている（4.0%）」となっている。

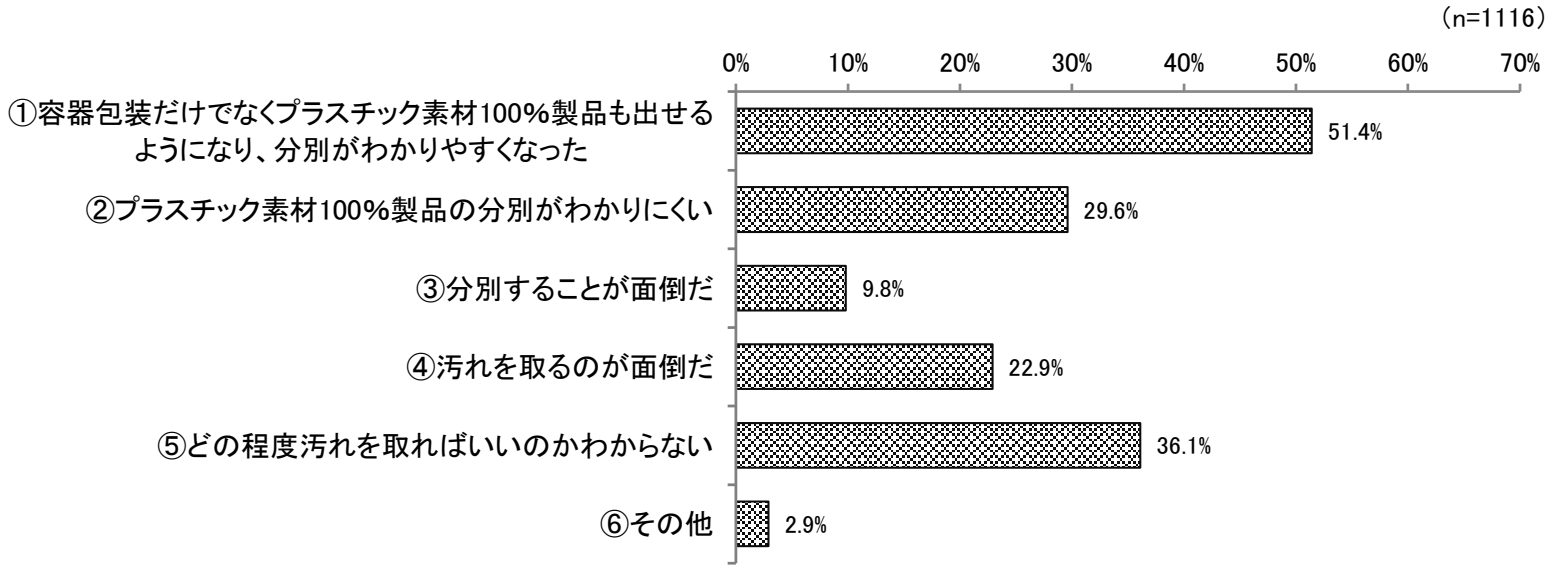
図表 4　プラスチック資源（赤の指定袋）を出すときの分別状況



➢ プラスチック資源を出すときに感じていること

「①容器包装だけでなくプラスチック素材 100%製品も出せるようになり、分別がわかりやすくなった」の割合が最も高く51.4%となっている。次いで、「⑤どの程度汚れを取ればいいのかわからない（36.1%）」、「②プラスチック素材100%製品の分別がわかりにくい（29.6%）」となっている。

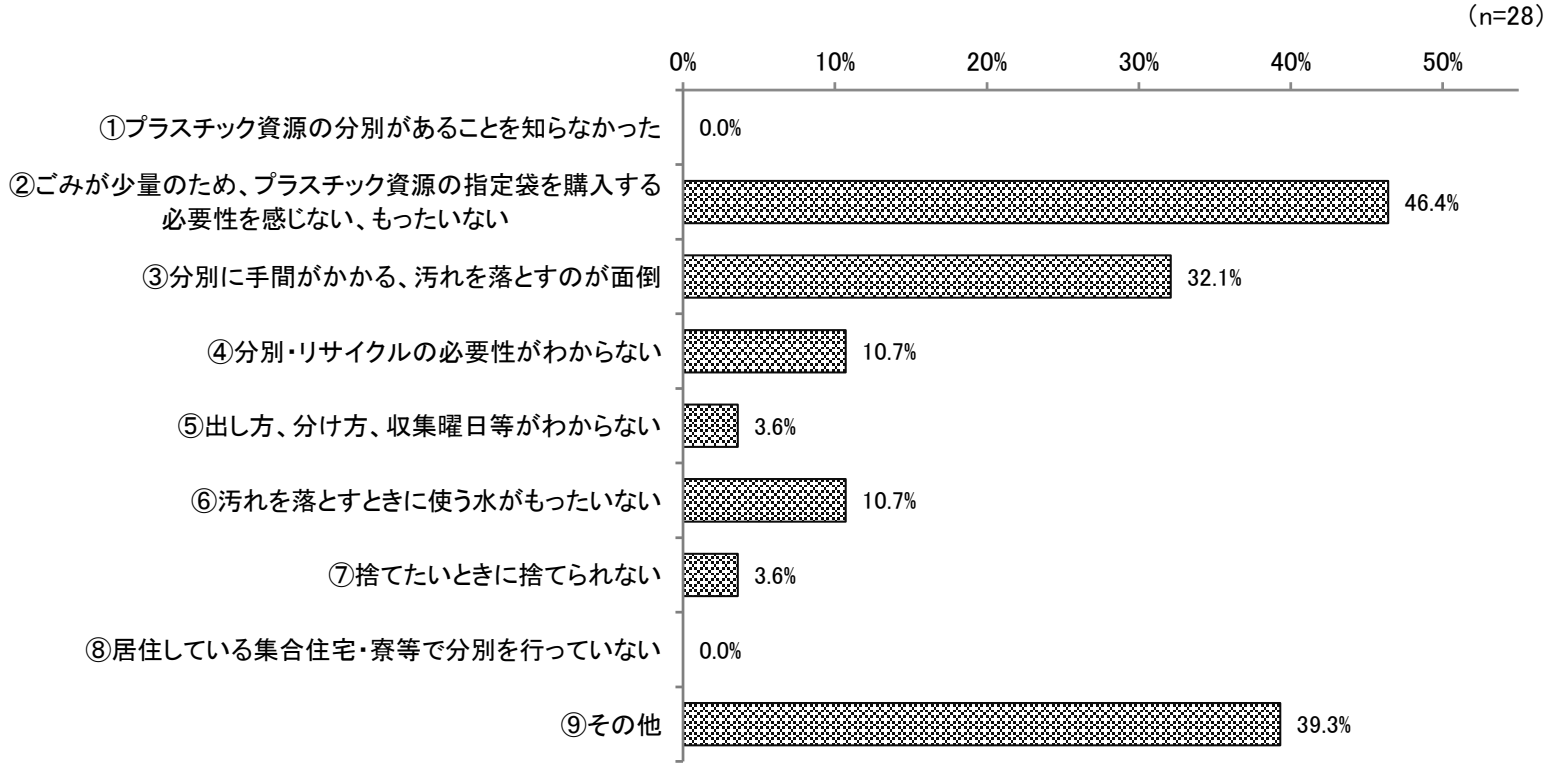
図表5　プラスチック資源を出すときに感じていること　※該当するものすべてを回答



➢ プラスチック資源の指定袋を使用していない理由【※プラスチック資源の指定袋を「使用していない」と回答した割合は全体の 2.5%（28 件)】

「②ごみが少量のため、プラスチック資源の指定袋を購入する必要性を感じない、もったいない」の割合が最も高く 46.4%となっている。次いで、「⑨その他（39.3%)」、「③分別に手間がかかる、汚れを落とすのが面倒（32.1%)」となっている。

図表 6　プラスチック資源の指定袋を使用していない理由　※該当するものすべてを回答

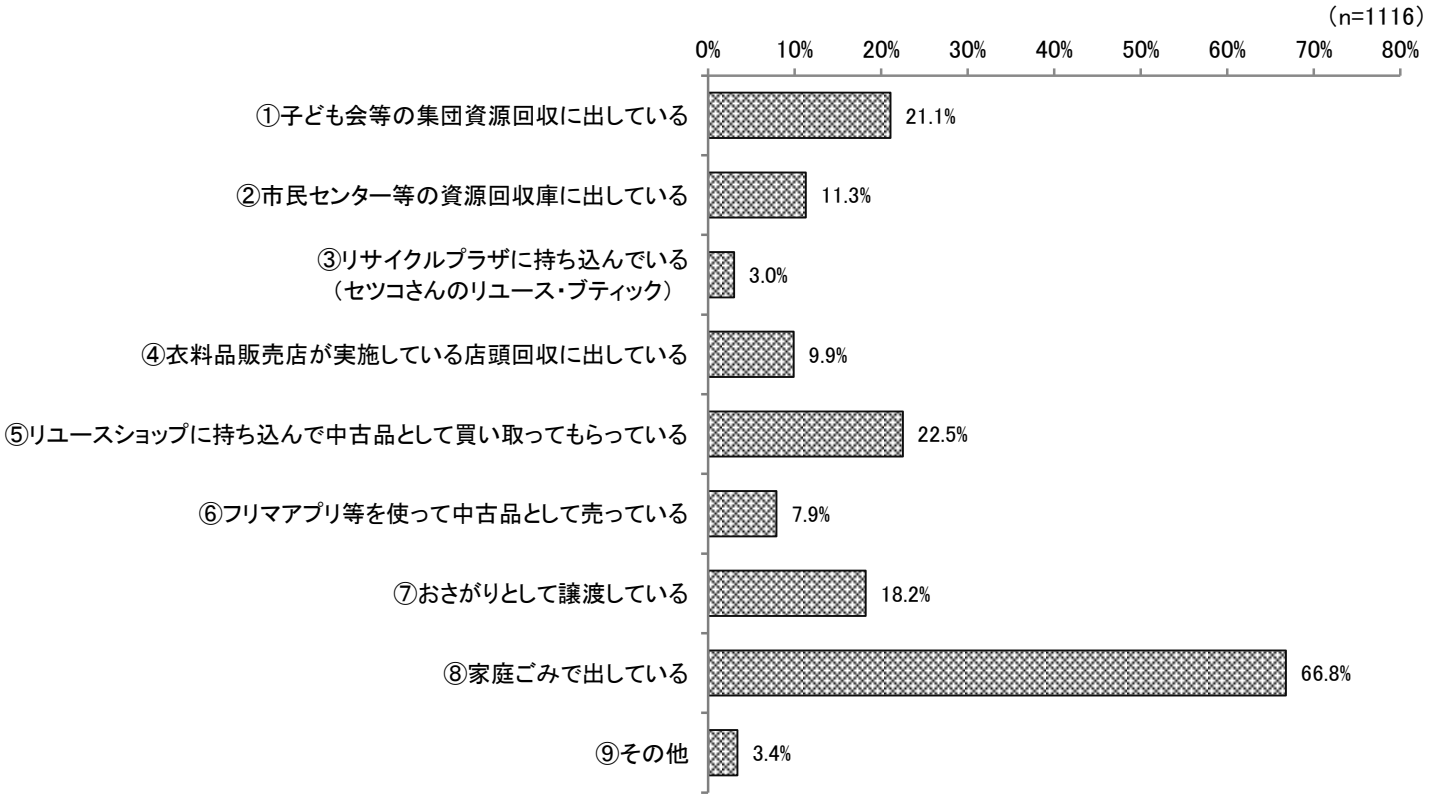


３）布類

➢ 衣類・布類の出し方

「⑧家庭ごみで出している」の割合が最も高く 66.8%となっている。次いで、「⑤リユースショップに持ち込んで中古品として買い取ってもらっている（22.5%）」、「①子ども会等の集団資源回収に出している（21.1%）」となっている。

図表 7　衣類・布類の出し方　※該当するものすべてを回答



（３）事業者アンケート

調査期間		令和６年 11 月７日～令和６年 11 月 29 日
調査対象等		無作為に抽出された仙台市内の事業所 3,500 件（うち、大規模・多量排出事業所 300 事業所を含む）に送付、設問数 26 問、回答数 1,191 件、回答率 34.0%
回答者属性	業種	農林水産業 0.3%、土木・建設業 36.6%、食品製造業 1.4%、食品以外の製造業 3.1%、運輸・通信業 5.0%、デパート・スーパーマーケット 0.5%、コンビニエンスストア 0.6%、その他の食品小売業 1.9%、食品以外の小売業 6.4%、不動産業 6.4%、ホテル・旅館業 1.2%、金融・保険業 0.8%、飲食業 1.2%、サービス業 10.2%、物品賃貸業 0.7%、学校・学習支援業 1.5%、医療・福祉機関 2.6%、その他 18.6%、無回答 1.1%
	事業者の形態	工場・作業所 8.6%、工場・作業所兼住宅 0.2%、倉庫・事務所兼倉庫 16.7%、営業所・事務所 51.9%、事務所兼住宅 5.2%、店舗 9.2%、店舗兼住宅 1.0%、その他 6.4%、無回答 0.8%
	建物の所有状況	自社所有・自己所有 54.8%、賃貸 42.2%、その他 2.4%、無回答 0.6%
	従業員数	１～４人 11.8%、５～９人 22.3%、10～19 人 24.3%、20～29 人 12.8%、30～49 人 11.7%、50～99 人 9.4%、100～199 人 4.1%、200～299 人 1.1%、300 人以上 2.1%、無回答 0.5%
	延べ床面積	～49 ㎡ 7.4%、50～99 ㎡ 16.7%、100～499 ㎡ 37.7%、500～999 ㎡ 11.8%、1,000～2,999 ㎡ 9.2%、3,000 ㎡以上 10.3%、無回答 6.8%
	資本金	～199 万円 3.4%、200～299 万円 0.4%、300～499 万円 10.1%、500～999 万円 9.8%、1,000～2,999 万円 46.9%、3,000 万円～24.5%、無回答 4.9%
	ごみの排出主体	自社で行う 78.9%、建物の管理会社が行う 10.9%、その他 6.9%、無回答 3.3%
	1 ヶ月あたりのごみ・資源物処理費用	2,000 円以下 31.0%、2,001～5,000 円 18.6%、5,001～10,000 円 11.9%、10,001～50,000 円 20.4%、50,001～100,000 円 5.5%、100,000 円以上 5.4%、無回答 7.2%

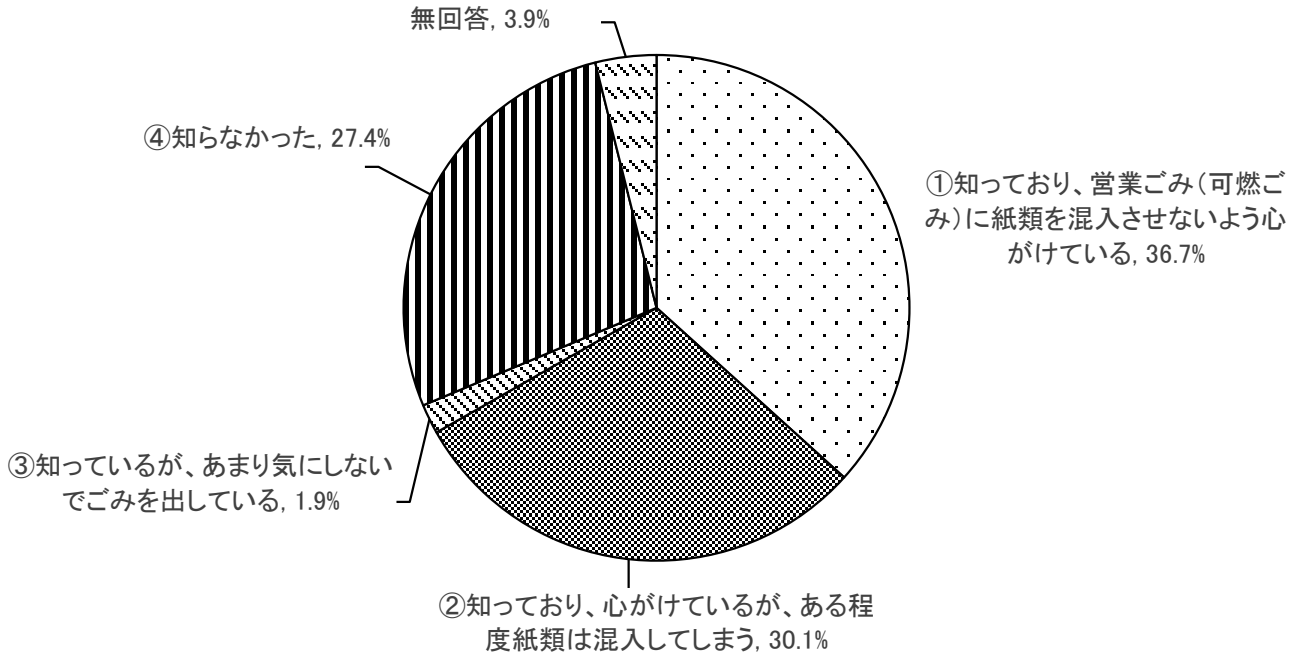
１）リサイクル可能な紙類

➢ リサイクル可能な紙類を焼却工場へ搬入できないことへの認知度

「①知っており、営業ごみ（可燃ごみ）に紙類を混入させないよう心がけている」の割合が最も高く 36.7%となっている。次いで、「②知っており、心がけているが、ある程度紙類は混入してしまう（30.1%）」、「④知らなかった（27.4%）」となっている。

図表 8　リサイクル可能な紙類を焼却工場へ搬入できないことへの認知度

（n=1191）

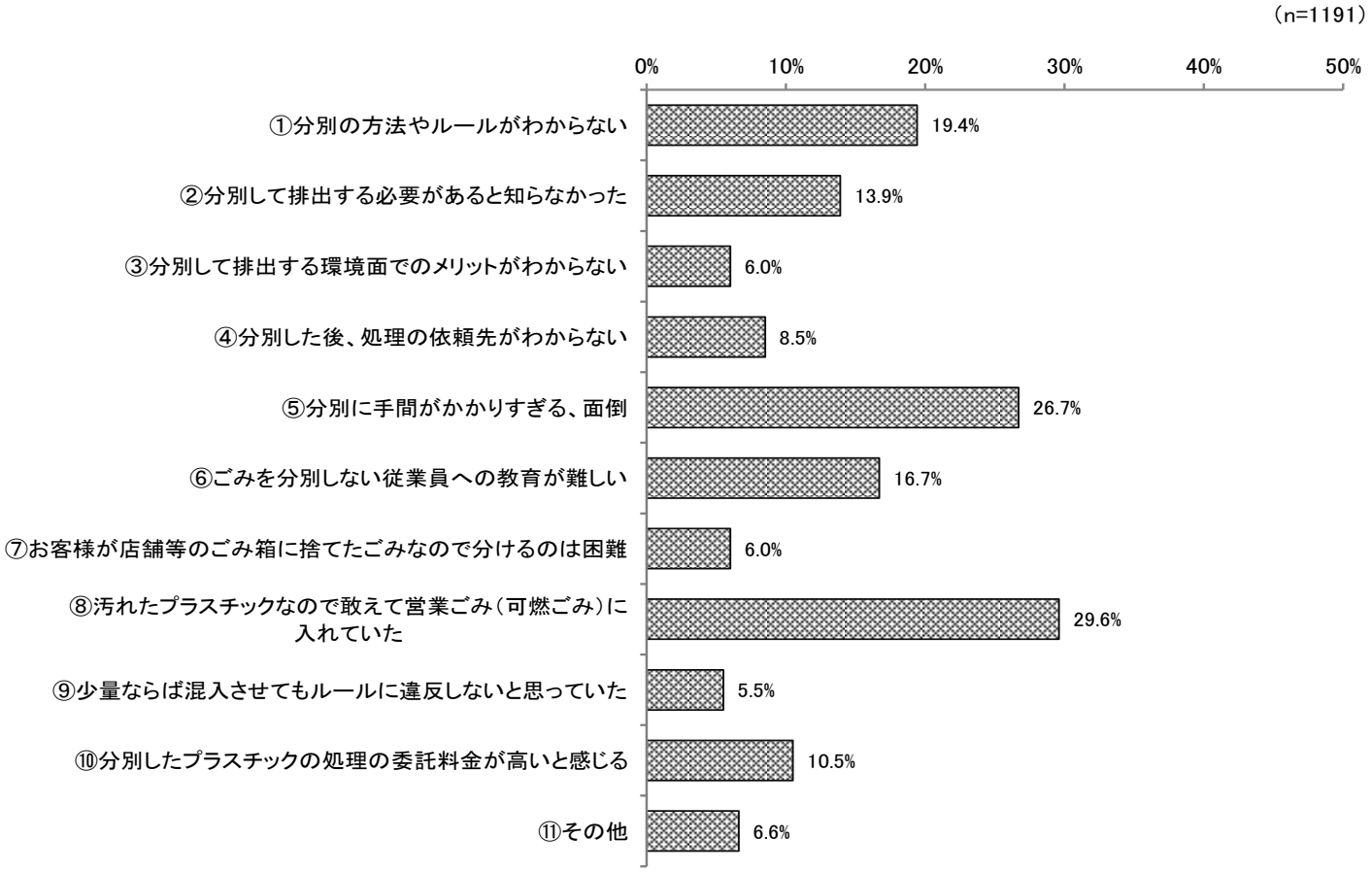


２）プラスチック

➢ 廃プラスチックが分別されにくい要因

「⑧汚れたプラスチックなので敢えて営業ごみ（可燃ごみ）に入れていた」の割合が最も高く 29.6％となっている。次いで、「⑤分別に手間がかかりすぎる、面倒（26.7％）」、「①分別の方法やルールがわからない（19.4％）」となっている。

図表 9　廃プラスチックが分別されにくい要因　※該当するもの３つまで回答



（４）市政モニターアンケート

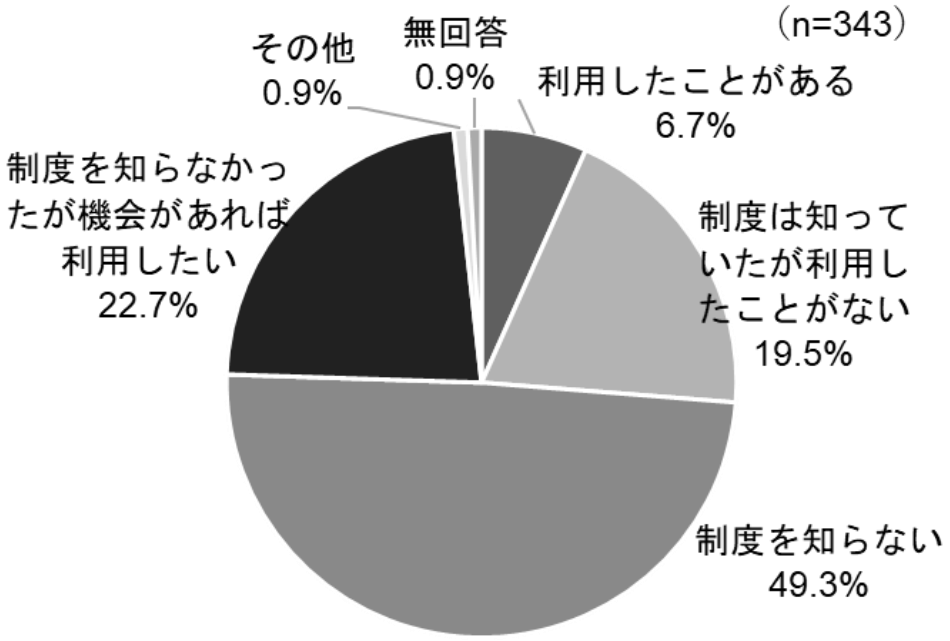
調査期間		令和６年９月 26 日～令和６年 10 月 11 日
調査対象等		市政モニター399 名、回答数 343 件、回答率 86.0%
回答者属性	居住区	青葉区 27.7%、宮城野区 16.6%、若林区 12.5%、太白区 23.3%、泉区 19.5%、無回答 0.3%
	性別	男性 31.5%、女性 67.3%、その他 0.0%、無回答 1.2%
	年齢	10 代 0.9%、20 代 7.0%、30 代 17.5%、40 代 17.5%、50 代 18.4%、60 代 14.3%、70 代以上 24.2%、無回答 0.3%
	世帯構成	一人暮らし 12.2%、夫婦（パートナー）のみ 32.4%、二世代（あなたと親）8.5%、二世代（あなたと子）39.9%、三世代 5.0%、その他 2.0%
	同居人数（回答者含む）	１人 14.3%、２人 36.7%、３人 23.6%、４人 18.4%、５人以上 7.0%
	職業	会社員・団体職員等 31.8%、自営業 4.1%、パート・アルバイト・非常勤 18.1%、家事専業 12.8%、学生 9.6%、無職 21.0%、その他 2.3%、無回答 0.3%
	居住形態	一戸建 52.8%、分譲マンション 19.0%、賃貸マンション・アパート 25.9%、社宅・寮等 1.2%、店舗兼住宅 0.3%、その他 0.9%
	通算居住年数	１年未満 0.6%、１年以上３年未満 8.7%、３年以上５年未満 5.0%、５年以上 10 年未満 8.5%、10 年以上 20 年未満 16.3%、20 年以上 60.6%、無回答 0.3%

１）剪定枝のリサイクル

➢ 剪定枝のリサイクル事業の認知度・利用意向

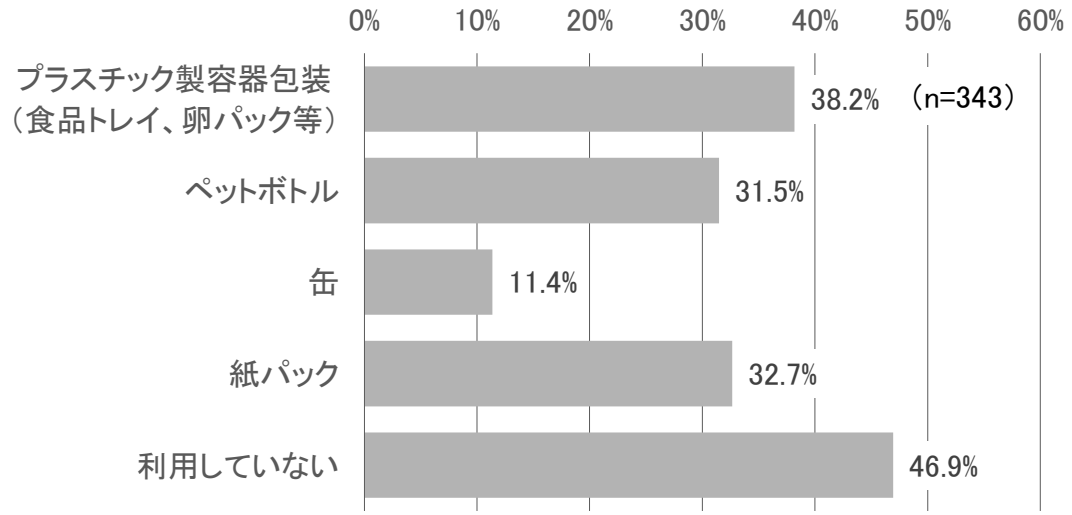
家庭から出た剪定枝を無料で戸別収集または自己搬入により、たい肥の原料や原料チップ等へリサイクルする事業（要申し込み）の認知度・利用意向について、「制度を知らない」との回答が最も多く 49.3%、次いで「制度を知らなかったが機会があれば利用したい」が 22.7%、「制度は知っていたが利用したことがない」が 19.5%、「利用したことがある」が 6.7%であった。

図表 10　剪定枝のリサイクル事業の認知度・利用意向



２）資源物の店頭回収

➢ 店頭回収の利用状況

日常的にスーパー等の店頭回収を利用して出している品目について、「利用していない」との回答が最も多く 46.9%であり、「プラスチック製容器包装（食品トレイ、卵パック等)」が 38.2%、「紙パック」が 32.7%、「ペットボトル」が 31.5%、「缶」が 11.4%であった。

図表 11　店頭回収の利用状況　※該当するものすべてを回答